

- 
- 2014 Gregory Benford『夜の大海の中で』山高昭訳（早川書房、1986年、ハヤカワ文庫SF）  
原題: In the Ocean of Night.
- 
- 「スナーク？」  
「イギリスの神秘的な獣のとき（スナークは、ルイス・キャロル『スナーク狩り』に登場する架空の生き物）」
- 
- p. 97
- 2015 Adrian Berry『一万年後』下、小林司訳（光文社、1975年、カッパ・ブックス）  
原題: The Next Ten Thousand Years.
- 
- 「不思議の国のアリス」にでてくるチェシャ猫の話がほんとうになるわけである。
- 
- p. 22
- 2016 Jorge Luis Borges『夢の本』堀内研二訳（国書刊行会、1983年、世界幻想文学大系43）  
原題: Libro de sueños.
- 
- 「今夢を見ていなさる。誰の夢だかわかるかね？」  
「誰にもわからないわ。」  
「あんたの夢だよ。それで、もし夢を見終わったら、あんたはどうなると思う？」  
「わからないわ。」  
「消えちまうのさ。あんたは夢の中の人間。だから、その王様が目を醒ましたら、あんたはろうそくのように消え失せてしまうのさ。」  
——ルイス・キャロル『鏡の中のアリス』（一八七一）より
- 
- p. 209
- 2017 Jorge Luis Borges, Margarita Guerrero『幻獣辞典』柳瀬尚紀訳（晶文社、1974年）  
原題: El Libro de los seres imaginarios.
- 
- 一八六五年に出版された『不思議の国のアリス』のなかで、ルイス・キャロルは、ゆっくりと姿を消して、齒も口もなくなり、ただにやにや笑いだけを後に残していくという能力をチェシャ猫に与えた。
- 
- p. 56
- 2018 Ray Bradbury「死人使い」遠川宇訳（仁賀克雄編『幻想と怪奇』3（早川書房、1978年、ハヤカワ文庫NV）p. 173-191）  
原題: The Handler.
- 
- 氏はわれながら仰天して、「『不思議の国のアリス』ではないが、いやがうえにも高くそびえ、好奇心もいやましに募ってくる！」と心中にさげび、両手をたかく突きだしたものだ。
- 
- p. 181